

令和4年度宗像市環境保全審議会（第2回）

<議事要旨>

■日時、場所

○日時：令和4年11月2日（水）14:00～15:50

○場所：市役所304会議室

■出席者

○審議会委員

委員出欠表（ <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席）		
<input checked="" type="checkbox"/> 安藤委員	<input checked="" type="checkbox"/> 弥永委員	<input checked="" type="checkbox"/> 牛房会長
<input checked="" type="checkbox"/> 柴田委員	<input type="checkbox"/> 堤委員	<input checked="" type="checkbox"/> 中垣委員
<input checked="" type="checkbox"/> 東委員	<input checked="" type="checkbox"/> 福島委員	<input checked="" type="checkbox"/> 本田委員（Web出席）
<input checked="" type="checkbox"/> 前田副会長	<input checked="" type="checkbox"/> 松尾委員	

○事務局：環境課脱炭素社会推進室前田室長、寺田係長、吉武主任主事
環境課広渡課長、三好主幹、広渡係長

○(一財)九州環境管理協会：保田、後藤

1. 開会

- ・堤委員はご欠席、本田委員 webにてご参加
- ・配布資料の確認

2. 脱炭素社会推進室長挨拶

- ・前田脱炭素推進室長よりあいさつ

第1回の審議会での意見を踏まえて、市民アンケート、社会動向等、温室効果ガス排出量を調査。その結果を報告した後に中間見直しの策定方針を協議。

- ・第1回の環境保全審議会の振り返り

第1回の環境保全審議会では、審議会の進め方、環境基本計画見直しにあたっての作業方針、アンケート調査等についてご審議頂いた。

3. 報告事項（進行：牛房会長）

（1）市民アンケート調査について

資料1の市民アンケート調査結果について事務局、九州環境管理協会より説明。

前回審議会でのご意見を踏まえて、アンケート調査票には外来生物の周知に関するコラムを加えた。また、調査対象を2,000人にこだわる必要はないのではないかというご意見を頂いたが、今回は中間見直しという段階であり、前回アンケート結果との比較という観点から、同じ条件で実施させて頂くこととした。

牛房会長：今回の調査では、アンケート鑑などに行動経済学の知見も活用したものの、効果がみられなかったということか。

- 九環協 : 行動経済学の知見のほか、WEB 回答を可能とすることで回答率の向上を狙った。結果としては前回より回答率は下がっているが、宗像市の回答率は他市に比べても高い方であり、伝わる方には伝わったかもしれない。
- 牛房会長 : 自由回答にアンケートがわかりづらいというご意見もあり、今後改善の余地はあるかと思う。若い世代の意見を多く求めたいのであれば、年代別に抽出して実施するというのも良いと思う。
- 弥永委員 : p.3にある属性の*印をつけたコメントは誤りではないか。高齢者、無職が増加ということがあるが、そうは見えない。
- 吉武主任 : 確認の上、修正する。
- 安藤委員 : 回答者に高齢の方が多いいくことを逆に考えると、宗像市に長く住まわいて愛着がある方は返信してもらえらるが、そうでない方には返信いただけないという印象を受ける。また、環境保全活動への参加の割合が低いという説明もあつたが、近年はコロナウイルス感染症の影響もあると感じる。
- 吉武主任 : ご意見のとおり近年は実施機会も限られており、環境基本計画の掲載時には注釈等を付けることとしたい。
- 福島委員 : 第2次環境基本計画を知らないために答えようが無いということで、回答率が下がったのではないか。いかに環境基本計画を知ってもらおうかということを考えないといけない。
- 前田副会長 : コミュニティセンターで生物多様性の講演を実施したことがあるが、このような機会に環境基本計画というものがどういふものか、今一度説明が必要だとは思う。
- 前田室長 : 説明などは必要だと認識している。アンケートでは若い方の意見も少なく、普及啓発だけでなく、意見が頂ける場も作っていきたい。
- 牛房会長 : ゼロカーボン設備の導入の設問で、トップランナー基準に適合した家電製品の認知度は低い一方で、導入したいという回答が多いことは気になる。また、地球温暖化に関する施策の重要度が前回と比べて低くなっているということについて、社会的な動向と異なる一面もある。このあたりは留意した検討が必要だろう。
- 安藤委員 : 重要度の結果をみると、生活に密着したことの項目（生活環境）には関心があるが、身近でない項目（地球環境）には関心が低いのではないかといい印象は受ける。やはり、現在実施している取組をどう認知してもらおうかということが重要なのだろう。
- 弥永委員 : 重要度が下がるのは問題だが、満足度が下がったことを裏返すと、市民意識が高まっているといえるのかもしれない。

(2) 社会動向等調査について

資料1の社会動向等調査結果について九州環境管理協会より説明。

弥永委員 : 第1章の計画策定の背景には、資料1にある見直し方針に沿って説明を追加する形となるのか。

寺田係長 : そのとおりである。

福島委員 : 10年程前に宗像市で水辺条例を制定しようという動きがあり、条文のたたき台までできたが、その後の状況がわからない。どうなったのか。

三好主幹 : 釣川が県管理の河川であり、当時、釣川の保全計画を福岡県の方で策定中であつたため見送りとなっていた。昨年度保全計画が策定されており、河川空間の利用については県との連携や社会情勢を見ながら判断したいと思う。

前田副会長 : 様々な内容を盛り込んでボリュームが増えると思う。計画に反映した文章等もこの審議会で審議するということが良いのか。

吉武主任 : 社会動向の全てを網羅して盛り込むのではなく、それぞれの要素を計画に加えつつ、宗像市らしさをもって市民にわかりやすい形で計画に落とし込んでいきたいと考えている。次回の環境保全審議会で計画に反映した素案をご提示できればと考えている。

安藤委員 : 現在の施策の実施状況などの進捗も計画には示すのか。

吉武主任 : 現在の進捗は示す予定である。

東委員 : 目指す環境像については前回改訂時にこの審議会で提案したものであり、今回は継続することだったが、サブタイトルについては宗像市の方で検討されたものである。先ほどのアンケート結果にもあつたが、気候変動や地球温暖化に関する市民意識が社会動向に合っていないことが課題だと思う。宗像市がゼロカーボンシティを宣言したなかで、それらが意識できる言葉をサブタイトルに入れられないか検討すべき。

(3) 温室効果ガス排出量調査について

資料1の温室効果ガス排出量調査結果について九州環境管理協会より説明。

本田委員 : 先ほどの説明では環境基本計画を知らないという方が多いが、温室効果ガスの排出量としては減ってきている。家電や自動車などの性能などが良くなったということか。

九環協 : 家電などが省エネ型になっているケースは多く、買い替えが進んだことが温室効果ガスの削減に繋がっているとは言える。

牛房会長 : 運輸部門が上がっているように思う。

吉武主任 : 宗像市の自家用車数は増えており、その結果が反映されている可能性はある。

九環協 : 運輸部門の排出量そのものは概ね横ばいであるが、電力の排出係数が低減したため、エネルギー使用量の中で電気のウエートが大きい家庭部門や業務部門の総排出量に占める割合が小さくなり、運輸部門の割合が大きくなってい

る。しかし、省エネ性能が向上したことで全国的には減少傾向にあり、本来は排出量が減ってもおかしくないが、宗像市では自動車台数が増えていることが要因かもしれない。

弥永委員 : 電力の排出係数は年度によって変わり、2020年は上昇している。経年的な比較をするのであれば排出係数を固定した検討も必要ではないか。

九環協 : 排出係数を固定した場合も検討する。ただし、カーボンニュートラルに向けた目標設定にあたっては、国の計画で示される将来的な排出係数が設定されているため、その排出係数をもって検討したい。

牛房会長 : 環境省 REPOS を活用することで、宗像市で再生可能エネルギーのポテンシャルに関する情報が入手できると思うが、今回の見直しで検討するのか。

九環協 : 昨年度の別業務で実施されていると思う。その結果は必要に応じて環境基本計画にも反映することとしたい。

東委員 : 二酸化炭素の吸収量の計算にあたってはブルーカーボン（海草・海藻等による吸収量）も含めたものとするのか。

九環協 : ブルーカーボンについても算定可能な方法で試算する予定である。

（４）現行計画の進捗評価について

資料２について事務局より説明。

牛房会長 : 計画期間が残されているなかで、数値目標からは順調に進捗している印象を受ける。

東委員 : 施策の実施状況は 100%ではあるが、近年は磯焼けや海洋プラスチックの問題が顕在化している。里山も竹の侵入拡大という問題があり、施策実施率に伴った課題解決はできていない一面はある。

柴田委員 : 宮若市との境界では太陽光パネルの設置により、森林が伐採されて河川への土砂流入といった課題や、イノシシが里に下りてくるといった課題はある。実施率は 100%かもしれないが、課題はあると思う。

安藤委員 : アンケートの結果を踏まえても、環境課題に関する市民の捉え方と市としての取組の実施状況が近いものにならないといけないと思う。

前田室長 : 評価にあたっては、施策の実施率といった活動指標と、その結果から得られる数値的な成果指標の両面があるが、成果指標（数値目標）を重視したいとは考えている。評価は難しいところはあるが、市民の声も聞きつつきめ細かく対応していきたい。

4. 審議事項（進行：牛房会長）

（１）見直し素案の作成方針について

資料３について事務局より説明。

中垣委員 : 環境基本計画の認知度の話があったが、市民が知る機会はどの程度あるのか。

- 吉武主任 : 現時点ではホームページでの掲載や、情報コーナーに冊子を置くといった形となっており、市民からの働きかけがないと触れられないと思う。
- 中垣委員 : 本編を全市民に配るのは難しいだろうが、リーフレットを配布するなど考えてもいいのではないか。
- 牛房会長 : 北九州市でもパワーポイントでまとめた概要版を作成している。
- 吉武主任 : 市民が手に取りやすい形を検討していきたい。今回も概要版は作成する予定である。
- 牛房会長 : 温室効果ガス排出量の目標値は大きく見直す必要がある。
- 吉武主任 : ご意見のとおりである。国の動向を踏まえた目標設定としたい。
- 弥永委員 : 全ての市民が環境基本計画の全てを知らないといけない訳ではないと思う。取組そのものは分野別に実施されるため、分野別に切り分けて認知を上げていくという方向性もあるのではないか。認知に関しては「知らない」「名前は知っているが内容を知らない」「知っている」の3つがあると思う。全てを理解することは難しくても、自分の興味があるような分野が見やすい形で提供されるといいと思う。
- 本田委員 : 認知を上げるということに学校教育を活用できないだろうか。学校での環境教育の一環で環境基本計画を紹介することができれば、子を通じて親にも伝わっていく。子どものプリントで親向けの一枚ものを準備してQRコードをつけて意見を募集してもよいだろう。生き物マップ的な情報発信もあるのではないか。
アンケートでは虫や鳥と触れ合う機会が増えればよいという意見もあったと思うが、市報などで環境団体を紹介することなどで知ってもらう機会を多くすることもできるかもしれない。
- 牛房会長 : 環境省でも『こども環境白書』を作るなど、子供への環境教育を通じた普及啓発は実施していた。また、『むなかた子ども大学』を通じた環境基本計画の普及を考えてもよいのでは。
- 福島委員 : 宗像市には『むなかた電子博物館』もある。このようなWebデータベースも活用できると良いだろう。
- 松尾委員 : 過去実施しようとしていたポイント制度の導入なども良いのでは。取り組むことのメリットにもなる。
- 安藤委員 : 概要版については、小学校、一般など対象に応じて少し見せ方を工夫してもいいと思う。
また、本編でも活動状況の写真を掲載しているが、その一方で現在の課題を伝えるために環境問題が顕在化しているところの写真を掲載してもいいのではないか。悪い状況の写真を見せることで自分事として捉えるきっかけになるかもしれない。

5. その他

吉武主任 : 多くのご意見に感謝する。本日頂いた意見を踏まえて見直し素案の作成を進めたい。次の審議会は12月を予定しており、次回はパブリックコメント前の段階として、見直した環境基本計画の素案を審議していただきたいと考えている。

6. 閉会

牛房会長 : 以上で第2回環境保全審議会を閉会する。

以上